

日常の防災ブック「東京くらし防災」

●女性の視点からつくった防災ブック

東京都は、女性の防災への参画を促すとともに、都民の一層きめ細やかな災害への備えを促進することを目的として、女性の視点で作成した防災ブック「東京くらし防災」を配布しています。

今回は、日常生活でできる防災をわかりやすく紹介した同書の内容についてみていきます。

●「東京くらし防災」とは

防災において、最も重要なことは命を守ることです。しかし、都のアンケートによると「具体的な方法がわからない」という理由で、災害の対策をしていない方も多いようです。

「東京くらし防災」は、こうした状況を受け、企画・作成された防災ブックです。都民が日常生活の中で無理なく取り組める防災対策や、避難所における授乳、防犯対策など、被災生活で生まれるさまざまな課題への対処法が1冊にまとめられています。

同書には、東京でひとり暮らしをする「わたし」、小さな子供の母でもある「お姉ちゃん」、世話好きの「お母さん」など、親しみやすいキャラクターが登場し、生活シーンごとにイラストや大きな文字を交え、具体的な防災対策がわかりやすく紹介されています。また、各見開きごとに音声コードを掲載し、視覚障害者等も含め、より多くの方が読めるよう配慮がなされています。

●暮らしの中でできる防災や体験談を紹介

生活シーンごとに紹介されている防災対策の例をみると、「出かける時の防災」として、いつもの通勤・通学路でのチェックポイントや外出時の安全性の高いスタイルを紹介。

「片付けでできる防災」として、食器の重ね方の工夫や調理器具は使用後にすぐにしまうこと、出入り口までの動線の確保や、穴を開けなくてもできる家具転倒・落下・移

動防止対策を紹介しています。

さらに、被災者の体験談も盛り込まれており、被災時の困難な生活状況下で少しでも安全に生きるヒントや知恵として、以下のような情報も掲載されています。

[在宅避難での食事と料理]、[避難所での暮らし方]着替えや洗濯干しは専用スペースで、避難者も役割分担を行う。[避難所での防犯]複数人で行動して身を守る、子供だけの環境はつからない。[避難所でのペットとの過ごし方]など。

構成は、巻頭特集「いますぐできる！15のこと『BOUSAI LIFE TOKYO』」、第1章「はじめよう、たすかる暮らし方」、第2章「覚えておこう、発災時の基礎知識」、第3章「想定しよう、被災後の暮らし方」となっています。冊子のサイズはB6判・164ページで、初版発行部数は100万部です。

●防災コールセンターも設置

「東京くらし防災」は、都立・区市町村立施設や民間事業者等の都内店舗事業所約9,000ヶ所に設置されている他(※1)、東京都防災ホームページ(<http://www.bousai.metro.tokyo.jp/index.html>)でもご覧いただけます。

また、東京都は下記の通り、「東京くらし防災」についての問い合わせを受け付けるコールセンターを設置しています。

【電話番号】03-6302-8641

【設置期間】平成30年6月29日(金)まで

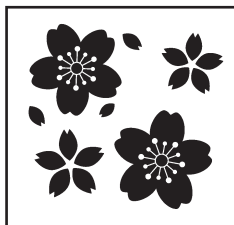
【受付時間】10:00~19:00(土日祝除く)

さらに、「東京くらし防災」については、東京都総務局総合防災部防災管理課(03-5388-2452)でもお問い合わせいただけます。

(※1)詳しい設置場所は東京都防災ホームページ(<http://www.bousai.metro.tokyo.jp/1005427/index.html>)か、東京くらし防災コールセンターで確認いただけます。

東京今昔物語487

小金井橋を中心に続く玉川上水沿いのヤマザクラの並木は「小金井桜」と呼ばれています。これは1737(元文2)年、徳川八代将軍・吉宗の時代に奈良県の吉野山と茨城県桜川から取り寄せ、植樹されたもの。それ以降、お花見スポットとして賑わい、大正13年には国の名勝に指定されました。しかし



国の文化遺産「名勝小金井桜」

近年、交通量の増加や高木の成長など、生育環境が悪化し、桜が危機的な状態に。そこで小金井市は東京都や市民団体と力を合わせ、「名勝小金井(サクラ)」復活へ向けたプロジェクトを進行中。歩道の整備や苗木の補植なども行われており、この春も江戸から受け継いだ美しい姿が見られそうです。